



## 10 生涯学習の成果発表 11・12 「第37回中央公民館まつり」



中央公民館を利用して生涯学習に取り組む利用者や受講者が日頃の学習成果を発表する「第37回中央公民館まつり」が開かれました。今年のテーマは「楽しみと出会う学べる公民館」。中央公民館前で開会式が行われ「公民館の歌」を参加者で斉唱し幕を開けました。展示コーナーでは、俳句や手芸、パッチワークなど20団体706点の作品が展示されました。また、文化会館を会場にした舞台発表では、日本舞踊、コーラス、カラオケなど日頃の練習を重ねた成果を披露。会場は掛け声や手拍子で大いに盛り上がりました。

## 10 中学生と幼稚園児が 17 稲刈り体験

稲作体験を長年続けている松岡中学校で、1年生79人が収穫の時期を迎えた学校近くの水田で稲刈りに汗を流しました。今年も、松岡幼稚園児15人も参加。中学生に教えてもらいながら、一緒に稲刈りを体験しました。春の田植えから農業指導をしてきた細金秀隆さんは、「今年の生徒たちは手際がいい。園児たちも丁寧に上手」と話し、中学生の菜花侑生さんは「ザクッ、ザクッと一株ずつ鎌を入れるのが気持ちが良い。自分たちで大事に育てたモチ米を食べるのが今から楽しみ」と話していました。収穫したこのモチ米は、収穫祭で生徒たちが試食するほか、文化祭で販売する予定とのことです。

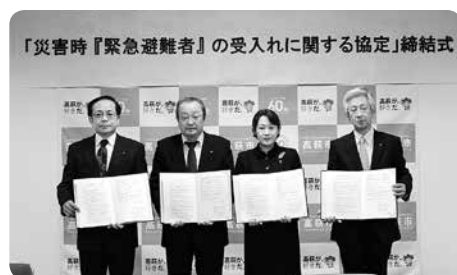


高萩市のフェイスブックでは「まちの話題」を随時配信しています。市公式ホームページからご覧ください。

## 10 更なる安全・安心のために 15 市内の事業所と災害時支援協定

大地震や風水害などの大規模災害発生に備えて、高萩市は、東部大建工業株式会社と「災害時における物資の提供に関する協定」を締結しました。大規模災害時に、被災者等の支援のため、無償で物資（避難所ボードなど）の提供を受ける内容です。調印式に出席した今川次男代表取締役社長は「東日本大震災以降、災害対策の重要性を痛感しているところです。市民の皆様の役に立てれば光栄です」とあいさつされました。

また同日、市内に事業所がある株式会社永谷園高萩工場、生化学工業株式会社高萩工場、東部大建工業株式会社と「災害時『緊急避難者』の受入れに関する協定」を締結しました。災害時、避難場所を可能な限り提供していただく内容です。永谷園の蛭田工場長は「市のために貢献でき光栄です。災害時には、こころよく避難者を受け入れます」生化学工業の石川取締役高萩工場長は「地域住民に恩返しができる機会だと思っています」東部大建工業の今川代表取締役社長は「要請をいただければ、食堂や会議室を避難場所開放いたします」と心強くあいさつ。小田木市長は「高萩地区の津波避難場所は、今まで高萩霊園でした。今回、工場内の施設を避難場所として開放していただけることになり、悪



天候のときには、屋内に避難ができるようになりました」とお礼を述べました。

## 10 穂積家住宅で 4 「萩の茶屋」オープン

県指定文化財「穂積家住宅」の土間や和室にテーブルを配置し、古民家レストランとして利用する「萩の茶屋」が今年も期間限定でオープンしました。震災後に観光振興策として始めたこのレストランには、一昨年来店が9,400人、昨年来店が15,000人の皆さんが来店。今年も、市制施行60周年を記念した1日10食限定の豪華プレートやすき焼き風の「牛重」などの新メニューを用意しました。「萩の茶屋」の営業は11月30日（月曜日定休）まで。午前11時～午後4時。問合せは、同店（☎22-3910）まで。



市制施行60周年記念特別メニュー「萩の茶屋・特別料理」  
※ライス、スープ、ケーキ、コーヒー付  
4,200円

他にもリーズナブルなメニューを多数揃えています。

就將館  
だより 45

# 生涯現役

いきいき元気



津谷 順三 さん  
(71歳)

“71歳 現役空手家”

空手歴53年の津谷順三さん。茨城代表として、9月に開催された「日本スポーツマスターズ2014空手道競技」に出場し、70歳以上の部において全国3位の成績を収めました。「空手の練習は、全国の誰にも負けない」という気持ちで毎日2時間半〜5時間続けています。練習をしないと逆に調子が悪くなります(笑)毎日のリズムができてくるのかな」と話してくれました。

津谷さんは、高萩市空手道スポーツ少年団指導者として、毎日市内の体育館で空手教室を開いています。子どもたち20人に対し1人で指導にあたっているとのこと。「大会で子

どもたちが活躍してくれると嬉しい。指導者としての喜びですね」と目を細めます。昔からスポーツが大好きだった津谷さんは、マラソン大会や駅伝に出場し続けています。市内には、自分より年上で更に良いタイムで走る2人がいるそうです。「悔しいですよ。その2人に勝つのが目標です」と意気込んでいます。

また、健康な体を維持するために、バランスの良い食事を心がけているとのこと。前向きな姿勢と目標に向かうことが元気の秘訣です。



## 防災コーナー 災害に備えた情報収集



大雨や台風などの気象災害への対策は、地震や津波と異なり、時間的に余裕があることがほとんどです。

多くの人は被害を小さく予測しがちです。テレビ(データ放送含む)やラジオ、インターネット、エリアメール、防災無線など、可能な限り複数の方法で避難準備の情報をより早く入手し、もし身の危険を感じたら早めに避難行動を取ることが重要です。



## 「長久保赤水」の地図製作過程の資料調査と 研究発表会が開催

九月三日(土)から二五日(月)までの三日間、茨城大学教育学部副学部長の小野寺淳教授をはじめとする一六人の研究者の皆さんが全国各地から参加され、高萩市歴史民俗資料館と図書館会議室において、長久保赤水関係資料について、八月に続いて二回目の専門家による地図や地図編集資料の調査が行われました。

今回の調査では、山口県や徳島県、愛知県、秋田県、福島県、群馬県などの大学や博物館の先生方が参加され、赤水の日本地図だけでなく、大清広輿図(中国地図)や唐土歴代州郡沿革地図(中国歴代地図帳)などの製作過程を示す資料などの詳細な

写真撮影や書籍(漢籍類)資料調査などもあわせて実施されました。

この調査は、日本学術振興会の科学研究費補助金基盤研究「長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究」(代表者 小野寺淳教授)と江戸時代の国絵図研究会(会長 小野寺淳教授)によって行われたものです。

また、初日の午後五時三〇分からは、中央公民館の会議室において、研究発表会が開催されました。

● 正保常陸国絵図の編集図 長久保赤水・小宮山楓軒・鷹見泉石との関係を中心に 石井智子(茨城大学大学院生)

● (森) 幸安と赤水と赤水資料に見

る 上杉和央(京都府立大学准教授)

などが、高萩市民の皆さんをはじめ約三〇人余が参加して開催されました。

今後三

年間にわたって「長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究」が続けられていきます。



▲中央公民館で開催された研究発表会

### 【情報収集手段】

#### 市から配信する情報

ホームページ・エリアメール・防災行政無線(戸別受信機含む)・ツイッター・メルタか(登録制)・LINE・たかはぎFM・フェイスブック

#### 気象庁から配信する情報

テレビ・ラジオ・気象庁ホームページ・茨城県防災情報メール(登録制)

防災テレフォンサービス ☎20-7272

防災行政無線を聞き逃した人へ。直近の放送内容を電話で24時間いつでも確認できます。